

## 「ついたち」について

服部完治（名古屋市科学館）

### ●はじめに

幼少のころ、たとえば「9月1日」を「くがつ・いちにち」と読むたびに、それは「くがつ・ついたち」と言うのだと、母親や学校（あるいは保育園？）の先生に何度も注意された覚えがある。同様に、「2日」は「ににち」ではなく「ふつか」、「3日」は「さんにち」ではなく「みっか」というように、1日から10日までと20日（はつか）については特別な数え方をするのだということを、誰もが繰り返し練習してきたことだろう。

日付の場合は「いち」「に」「さん」…ではなく「ひい」「ふう」「みい」…という数え方を使うのだと、小学生のころは何となく納得していた。ところが、ある日ふと疑問に思ったのが「ついたち」である。たしかに2日から10日までは、ひい、ふう、みい…流の数え方があてはまり、「ふう」が2日（ふつか）、「みい」が3日（みっか）、「よう」が4日（よっか）…などとなる。しかし、それなら「1日」は「ひいか」あるいは「ひっか」と読むべきではないか。それが何故「ついたち」となってしまうのだろうか？

この疑問は、誰かに聞くこともなく、いつしか忘れてしまっていた。太陰暦の勉強をして初めて謎が解けたのだが、それは随分のちのことだった。

### ●回帰する月

太陰暦は月の満ち欠けによって月日を数える暦で、文明の黎明期から、世界のほとんどの民族がごく自然に使いはじめている。日本でも、明治5年まで使われていた天保暦、そして天保暦に準じて今も一部のカレンダーに

記されている「旧暦」は、太陰暦（正確には太陰太陽暦）である。

毎日毎日、昼と夜は交互に繰り返され、季節は果てしなく巡りくる。太古の人々にとって、「時」のイメージは、現代のように一方方向に一樣に進むもの（クロノス時間）ではなく、永劫回帰する円環構造をなすもの（カイロス時間）だった。人は日（太陽）の出没によって「1日」（いちにち）という、時が回帰するひとつの周期を知り、月（太陰）の満ち欠けによって「1月」（ひとつき）というまた別の周期を知った。天空を動く「太陽」（sun）と「太陰」（moon）は、彼らにとって「日」（day）と「月」（month）という、回帰する時の単位を知らせてくれる神聖な存在だったことだろう。

とりわけ月神は、細い三日月から夜ごと成長し、やがて満月を過ぎると今度は欠けてきて、ついには姿を消してしまう。人間同様、「誕生」「成長」「凋落」「死滅」という普遍法則に従っているわけである。そのうえ、死んで3日の後、月神は再び三日月として西の空に甦る。人類共通の願いともいえる「再生」をも、まさに具現しているのである。

フレーザーによれば、インディアンのある部族は、新月の夜に行う儀礼の際に「月が死んで蘇るように、我々も死後に復活する」と宣言する。また、カロリン諸島では「昔、人間は、月が痩せ衰えて姿を消すとともに死んだが、3日後に新月が現われると生き返った」と信じられているという。

輪廻転生を信ずることは、死の恐怖を軽減するための普遍的な手段である。月の満ち欠けが啓示する死と再生のイメージは、いろい

ろな民族の「死の起源説話」のなかに取り込まれてきた。これらは「月と不死型説話」と呼ばれ、広く世界中にその類例が見られる。

### ●新しい月の誕生

さて、月神が約30日という短い一生を繰り返し生き続ける限り、人間もまた、死んでも生まれ変わることができるわけである。となれば、もし月が再生しなくなったら、それこそ一大事だろう。古代の人々は、毎月、月が現われるのを待ちわび、新しく誕生した細い月を夕焼けの中に見つけた時には、大いに喜んだに違いない。

天文学上は、太陽と月の黄経差が $0^\circ$ になった瞬間を「朔（さく）」といい、その時の月齢をゼロとして月の周期の出発点としている。また、朔の状態にある月を「新月」と呼ぶ。新月は太陽と重なっているため、実際には見ることはできない。しかし、太古において「新月」とは、文字通り、朔の後で実際の空に初めて見える月のことを言った。現代でも、民俗学などではこの意味で使われるので注意が必要である。

古代バビロニアの神官たちは丘の上で新月を待ち受け、その出現をラッパを吹き鳴らして国中に知らせたという。その瞬間こそが、毎月繰り返される幾つもの月神の生涯の、ある一つのサイクルの始まりであり、古代の太陰暦における1カ月の始まりだった。人々は新月に礼拝し、『新しい光の儀式』が国を挙げて行われた。

バビロニアの創世神話『エヌマ・エリッシュ』には、主神マルドゥクが月神シンの役目を定める次のようなくだりがある。（文中シャマシュとは太陽神のこと）

日を知るための夜のかがざりとして  
たえず月ごとに冠の形で旅立て  
月の初めに地を照らしはじめ  
角の形で輝いて6日間を知らせ  
7日目には冠は半分になる

月なかばごとに  
満月の日にシャマシュと向いあうだろう  
シャマシュが地平線で  
おまえにおいつくようになると  
次第におまえは欠けていってもどるので  
おまえの見えなくなる新月の日  
おまえはシャマシュに近づき  
29日目、再びシャマシュに向いあうであ  
ろう

（「古代オリエント集」より）

この神話に記述されているように、太陰暦の月初は「月神が旅立つ日」すなわち「月立ち」（つきたち）の日である。これがなまって「ついたち」となったわけである。

中国では、古くは新月の初見された日を月初としたが、やがて天文学の発達により、朔の日を月初とする暦を作り上げた。そして実際の空に見える新月（いまで言う三日月）は、月が出ると書いて「朏（ひ）」と呼んだ。日本の旧暦はこの中国の暦を参考にして作られたものであり、朔を「ついたち」、朏を「みかつき」と訓読みしている。

なお、毎月末日は「晦（かい）」といって「みそか」とか「つごもり」と訓読みする。これは「三十日」（みそか）「月隠り」（つきごもり）のことである。日本語の意味からすれば、晦は「みそか」で良いとして、朔を「つごもり」、朏を「ついたち」と読むべきところだっただろう。もちろん、現在使われている太陽暦では、月初は本来の「ついたち」ではなくなってしまうのだが…。

### ●新月早見

ところで、月齢1以下の細い月を見ることはかなり難しい。たまに天文雑誌などに月齢0.9の細い月の写真が掲載されることがあるが、そのあたりがほぼ限界である。

新月（朏月）は、「大二小三」と言って、前月が旧暦の大の月（1ヶ月が30日）の場合は

2日、小の月（29日）の場合は3日に見える  
とされている。しかし、実際には月と太陽の  
位置関係によって、見やすさは大きく変わっ  
てくる。条件がよいのは、地平線に対して白  
道が垂直に近く立ち上がっているような時  
（太陽と月の高度差が大きく、方位差が小さ  
い場合）である。

アテネ天文台のシュミットは、1859年から  
1880年にかけて、76回にわたる新月の肉眼観  
測を行い、見えたかどうかの記録を残した。

イギリスのフォザリングムは、このシュ  
ミットの結果をもとに、太陽と月の高度差と  
方位差を計算して、新月が見えるかどうか  
の、おおよその目安（フォザリングムの限界）  
を見いだした。また、1921年の時点での新月  
早見ベスト14をまとめている（表1、2）。

表2のなかで、トップの2例については月  
齢約0.6の月を見たことになり、フォザリン  
ガムの限界を大幅に超える驚異的な記録であ  
る。また、1921年2月8日のデータについて  
は、欧米各地の天文台などが共同で肉眼観測

を行ったときのものである。

都市化と大気汚染の進んだいま、同じよう  
な観測を行ったとしたらどんな結果になるの  
だろうか。好条件の日時はパソコンで簡単に  
シミュレーションできるので、興味のある方  
は挑戦されてはいかがだろうか。

表1. フォザリングムの限界

方位差	日没時の限界高度
0°	12° 0
10°	11° 4
20°	10° 0
23°	7° 7

表2. 新月早見ランキング（『天文月報』1922年3月号より）

国名	場所	年月日	グリニッジ時* h m	観測者	月齢 h m	日没時	
						高度	方位差
イギリス	スカーバラ	1916. 5. 2	8 00	キング コリンソン	14 30	8.3°	0.6°
イギリス	ハンティンドン	1916. 5. 2	8 15	ウイリモット	14 45	8.3	0.7
イギリス	ブリストル	1881. 3.30	7 10	デニング	20 38	11.4	1.2
ドイツ	ベルリン	1899. 3.12	5 37	ショッホ	21 44	12.9	1.5
イギリス	リーズ	1919. 4. 1	7 10	ウイットメル	22 00	12.6	3.7
アメリカ	ハーバード天文台	1921. 2. 8	10 42	キアムベル ハーウッド	22 05	10.8	0.4
ドイツ	ハイデルベルヒ	1915. 3.16	6 01	ショッホ	22 16	10.8	1.6
ベルギー	シネイ	1918. 3.13	6 08	ショッホ	22 17	13.8	1.5
イギリス	エディンバラ	1908. 2. 3	5 00	ヘンダーソン	22 30	11.0	16.1
イギリス	ブリストル	1875. 6. 4	9 10	デニング	22 49	11.8	7.1
イギリス	マンチェスター	1864. 2. 8	5 40	ジョンソン	23 30	13.8	4.5
アメリカ	ローエル天文台	1921. 2. 8	13 21.5	ランブランド スライファー	24 45	12.0	0.6
アメリカ	ツーソン	1921. 2. 8	13 30	サイクス	24 53	11.9	1.3
ドイツ	ハイデルベルヒ	1916. 4. 3	6 25	ショッホ	26 06	13.8	1.4

\* 旧グリニッジ時（正午が0hです。）